

【記録】令和7年度 第3回徳島県立池田支援学校 学校運営協議会

1 日 時

令和8年2月19日(木) 9:30～11:30

2 場 所

徳島県立池田支援学校美馬分校

3 日程及び会次第

9:15～ 9:30 受付

9:30～11:30 学校運営協議会

(1)開会

(2)協議

①学校評価及び学校の取り組みについて

②各委員からの提言等について

③その他

(3)会長挨拶

(4)学校長挨拶

(5)閉会

4 協議における委員からの意見・感想

【委員 A からの意見】

- ・ 教職員を対象とした言語療法士、理学療法士と連携した学習指導に関する研修会:家庭でもできることがあれば実践したい。保護者にも案内は可能か。

【学校側の回答】

- ・ 参加の範囲を検討する。
-

【委員 B からの提案】

- ・ 新規開拓の状況: 実習先や就職先の開拓状況はどうか。
- ・ 経済団体との連携: 教員が個別に企業を回るのは大変ではないか。商工会議所などの経済団体に働きかけ、組織的に実習・雇用に前向きな企業をピックアップするルートを作るべきではないか。

【学校側の回答】

- ・ 現状: 進路指導担当がハローワークや障がい者就業・生活支援センターの方と連携して今年度も 2～5件の新規開拓を行ったが、生徒の実態に合うかどうかの判断もあり、すべてが実習に直結するわけではない。近隣施設からの卒業生が地元(県外)へ帰るケースもあるため、県外への開拓も行っている。
 - ・ 今後: 経済団体との連携はぜひ協力をお願いしたい。
-

【委員 C からの質問】

- ・ 児童生徒会の活動を知らせるために発行した「池支っ子新聞」の配付対象は、保護者のみか。様々な活動を地域とともに実施している中で、案内の範囲を拡げていく考えはあるのか。

【学校側の回答】

- 初めての取り組みとしてまずは保護者にお知らせをした。さらに地域の方々に児童生徒や学校を知っていた
だけよう、配付の範囲を検討したい。

【委員 C からの質問】

- 美馬分校の就業体験実習について。実習期間最長46日間の中で、生徒が何かのきっかけで大きく成長する
事はあると思う。その際、実習終了後の1回のみでの評価では惜しいと感じる。評価の回数を実習前期・中間・
後期の3回で評価してはどうか。両者の信頼関係の構築がないと難しいとは思いますが、事業所はもっと真摯に
考えてくれていると思う。

【学校側の回答】

- 連続して 46 日間実施しているわけではなく、2週間程度の区切りごとに「評価表」は作成していただき振り
返りを実施している。
- 基本は実習終了時の総括評価。お世話になる実習先の方にプラスアルファで評価をしていただくのは、大変
ではないかという思いもある。就業体験の日誌ノートを活用し実態を共有したり必要に応じて毎日コメント
をいただいたりする実習先もある。いずれの場合も貴重な体験をさせていただき感謝している。
- 長期間の場合は、成長のプロセスをより細かく捉える工夫が必要である。

【委員 C からの意見】

- この学校運営協議会で知ったメンター制度を事業所や法人の方でも実施しようと計画している。機会があれば
お声かけさせていただければと思っている。

【委員 D からの感想】

- 今年度は、婦人会と本校の児童で「530(ゴミゼロ)運動(地域の環境美化運動や環境学習)」と、「ボッチャ交
流大会」を実施。参加したメンバーは、「良い活動ができた」と感想を共有したところ。ホームページにも掲載
してくださり感心している。
- 私用で外出する際に、池田駅を利用した。本校高等部の生徒が製作した座布団があり、気分が落ち込む出来
事があったが、温かい気持ちになった。児童生徒、教職員の皆さんに感謝を伝えたい。

【委員 E からの感想】

- 本校も分校も、今年度も教職員が大変努力されて、概ね目標を達成された点が素晴らしい。
- 評価指標の設定や達成度の評価については、ずいぶん適切になってきた。特に本校の中学部、高等部で、事
前アンケートで評価指標を示し、その達成度をしっかり評価できている。

【委員 E からの質問・提案】

- 評価基準の不一致：本校は「達成＝A」としているが、分校は「達成＝B(想定以上＝A)」としており、基準が
バラバラではないか。
- 評価指標の妥当性：目標が「子供の変容」であるのに、指標が「教師がやったこと」になっている箇所がある
(例：命の安全教育やコミュニケーションの指標)。子供がどう変わったかを測るべきである。

【学校側の回答】

- 基準の統一：分校の評価基準は、教員個人の人事評価基準(できたら B)と混同していた可能性がある。次
年度は県の基準(達成＝A)に統一し、分校の評価も再考する。
- 指標の改善：ご指摘の通り、次年度は「子供がどう変容したか」を測定できるよう、評価指標を具体的かつ客
観的なものに修正する。

【委員 E からの質問】

- 分校の重点目標で『地域を元気にする力を育てる3S(Skill/Space/Smile)活動の充実』で、評価基準は、生徒の自己評価で達成度を測っているが、地域を元気にする力の具体である、役割を果たす力と協力する力が生徒の変容によって測られているのかどうか伺いたい。

【学校側の回答】

- 2つの具体の力は、自己評価の中に明記しているが、活動内容によっては偏りがあった。生徒自身が評価内容を選んで評価しているため、どちらか一方のみの評価になっている場合もある。

【委員 E の提言】

- 地域を元気にする力がどのように育ったか、どう変容したかを評価しないといけない。生徒や教員も育てる力が意識できるような評価シートを作成するべき。
 - 評価指標でこの目標が達成できるのかどうかを校内でチェックし、適切に指標を立てていくことができればよい。また、学校全体でも、地域を元気にさせる力を何かの評価指標で測って、評価するのもよい。
-

【委員 F の感想】

- 重点目標を掲げ統一した評価が難しい中、すべての項目においてほぼ達成というのは素晴らしい。
 - 先日も分校の生徒が施設見学も兼ねて訪問してくれ元気にしていただいている。施設の利用者も喜び、深く強い思い出として残っている。
 - 介護施設も学校と同じで人材不足である。業務内容は多岐にわたるが、業務内容を絞るなどの工夫をして支援学校の卒業生等の受け入れができるようにしたい。
-

【委員 G の感想】

- 学校は、コミュニケーションを育む場や成功体験を子供たちが得られる場所だと解釈している。
 - 本校、分校で、色々なものを作って配る活動等が、どれだけ地域の人を喜ばせているか、感謝されているかを可視化していくことが重要。児童生徒の皆さんが『誰かの役に立っている』ことを本人たちにもっと伝えてあげてほしい。その結果が、志や夢に繋がるのではないか。
 - 経済団体への働きかけ等協力する。
-

【委員 H の感想】

- 毎週みまカフェを利用させていただいている。
 - 生徒の皆さんの言葉一つ一つに癒されて、地域を元気にする力、人を元気にする力があり、みまカフェは本当素晴らしいと思う。これからも応援している。
-

【委員 I の感想】

- この学校評価にあげられていない取り組みも子供の成長につながっている。学校で様々な活動をさせていただき、保護者としてはありがたい。学校で取り組んだ活動がきっかけで、音楽鑑賞や描画を始め、家庭での余暇活動の充実につながっている。
-

【学校側の提起】

- 本校の危機管理体制の整備や ICT の取り組みについて意見を頂戴したい。

【委員 B からの質問】

- ICT 活用は「就労後のスキル」を目的としているのか、それとも今の「生活・学習」を豊かにするためか。

【学校側の回答】

- 今は「児童生徒が自ら主体的に伝えたいことを伝える手段」として重きを置いている。児童生徒の飲み込みが早く、教員側がどう活用して提示するかが課題。

【委員 E の提案】

- 教職員の危機管理と ICT の技術の向上については、鳴門教育大学で『教育支援講師・アドバイザー等派遣事業』があり、活用いただくのも一案。

.....

【委員 A の質問】

- 分校の取り組みで、VR で水害体験を実施したとのこと。地域的に水害の可能性があると思われる、水害体験になったと思うのだが、他の災害体験はあるのか。

【学校の回答】

- 県に依頼して実施した。おそらく他の災害についてもVR体験ができると思う。

【委員 A の意見】

- 本校で実施した初めての引き渡し訓練では、動揺していた児童生徒もいたが、訓練を重ねて問題点を解決していけばいいと思う。

.....

【学校長の意見】

- 委員の皆様から、評価指標の考え方や具体的な取り組みについてのアドバイス、また地域が元気になっているというご意見をいただいたところ。
- 学校評価というのは、私たち教職員が1年間で児童生徒にどのような教育を行っていくかというところの大きな設計図だと思っている。したがっていただいたご意見とともに、教職員から児童生徒へ目指す学校像や授業の目的、意味を伝え、フィードバックしていく必要性を感じている。
- 本校分校それぞれ異なる課題はあるが、引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。